

令和2年度東部地区ステップ・アップ研修実施報告

埼玉県教育局東部教育事務所

1 目的

ステップ・アップ研修は、初任者研修を踏まえるとともに、一年間の教員としての経験をもとに現職教員研修の一環として、実践的指導力と使命感及び幅広い知見等のより一層の向上を目的とする。

2 期日・会場 コロナ禍により集合研修を実施せず、資料による机上研修

埼玉県教職員MOTTO（モットー）

3 受講者数

小学校教諭 177名
中学校教諭 83名 計285名

みらい つく
未来を創る、こどもたち。

みらい そだ
未来を育てる、わたしたち。

～未来への責任～



埼玉県マスコット「コロン」(「おいもっす」)

4 内容

- ・演習1 「東部の教育を担う教員として」
東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当 主席指導主事 高野 達
- ・演習2 「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」
東部教育事務所総務・人事・学事担当 主席管理主事 越 晃宏
- ・演習3 「生徒指導に関する現状と課題」
東部教育事務所教育支援担当 指導主事 平越 紀英
- ・演習4 「特別支援教育の視点を生かした学級経営の充実」
東部教育事務所教育支援担当 指導主事 瀬高 武夫
- ・演習5 「道徳教育の充実～柔軟な道徳授業をつくるために～」
東部教育事務所教育支援担当 指導主事 鈴木 久美子
- ・演習6 「良い授業のポイント(「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業のポイント)」
～「良い授業を見つけ！広めて！学力UP事業」研修用映像資料を視聴して～
東部教育事務所学力向上推進担当 指導主事 金野 泰久

5 演習内容・受講者感想

演習1 「東部の教育を担う教員として」

東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当 主席指導主事 高野 達

- ・コロナ禍で、教員の仕事についてあらためて考えたのはどんなことですか。
- ・1学期が始まって、子供たちにどんなことを話しましたか。
- ・現時点で、初任者の自分と比較して、成長したと思うのはどんなことですか。また課題はどんなことですか。
- ・自己評価シートで記入した、今年一番力を入れて取り組んでいるのはどんなことですか。現時点での進捗状況はどうですか。
- ・指導に自信がある教科等や分野はありますか。また苦手な教科等や分野はありますか。
- ・自分の校務分掌を進めていく上で難しさを感じているのはどんなことですか。
- ・保護者との対応で意識しているのはどんなことですか。
- ・自分が目指すべき先生はいますか。それは、どんな先生ですか。

【受講者感想】

○今、目の前にいる子供たちの力を伸ばせる立場である仕事の責任の重さを感じながら指導に努めていきたい。そのために、どんな状況においても、ゴールを思い描いて仕事に取り組む。また、一人で解決しようとせず、学年の横の足並みをそろえ、学校全体でチームとして解決していくために、日頃から多くの先生方と関係を築く中で、学びを増やしていきたい。

○子供たちと日々の学校生活を送れることがとても幸せであり、私の学びであり感謝であると感じている。子供たちに向き合い児童を理解した上で一人一人の力を伸ばす責任を感じている。私は子供たちが自分の良さに気付き、自分を大切にできるように導きたい。管理職からの指導や諸先輩からのアドバイスを真摯に受け止め、日々学び続ける。

演習2 「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」

東部教育事務所総務・人事・学事担当 主席管理主事 越 晃宏

- 1 教育公務員とは
- 2 教員としての心得
- 3 教員としての服務

2 教員としての心得

〔埼玉県が求める教師像〕

- (1)健康で、明るく、人間性豊かな教師
- (2)教育に対する情熱と使命感をもつ教師
- (3)幅広い教養と専門的な知識・技能を備えた教師



【受講者感想】

○教員として、責任の重い立場であることを自覚し、日々過ごしている。不祥事を起こすということは、教職員全体の信用を失墜させ、信頼して指導を受けてきた生徒を裏切る行為である。個人はもとより家族及び教職員全体に大きな影響が及ぶことを忘れずに、教員としての自覚をしっかり持ちたい。また責任を負うのは自分だけでなく、学校長や教職員全体、家族にまで及ぶため、自分一人の人生ではないことを自覚しながらサービスにあたっていく。

○様々な場面で、サービスや不祥事についてお話をいただく機会があるのですが、そのたびに、「事故」が誰にでも起こり得ることや、毎日の注意の積み重ねで防止できることを再認識している。初年度は時間がうまく使えず、退勤後に自宅で教材研究を行うこともあったが、今年度は仕事の物は何も持ち帰ることがないようにし、事故防止に努めていく。小さな気の緩みがないようにしていく。

演習3 「生徒指導に関する現状と課題」

東部教育事務所教育支援担当 指導主事 平越 紀英

- 1 生徒指導とは
- 2 生徒指導が目指すこと
- 3 埼玉県の子童生徒の問題行動の状況
(1)暴力行為 (2)不登校 (3)いじめ
- 4 演習
- 5 終わりに

【受講者感想】

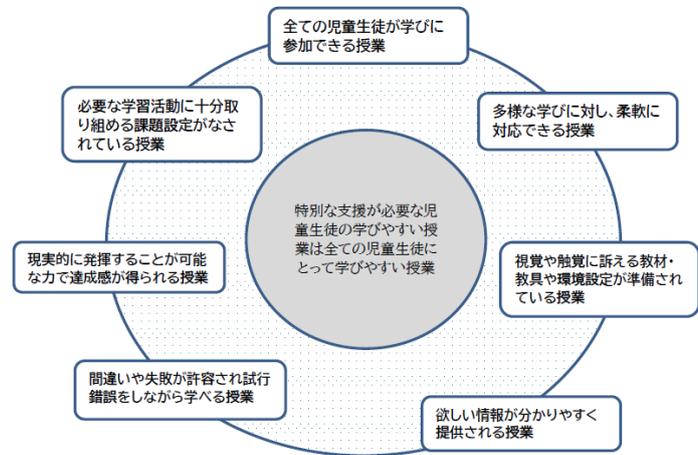
○今年度初めて担任をして、生徒指導は一人一人異なる対応をとっていかなければならないことを日々感じている。自分一人だけでは対応しきれない事案も多いため、生徒指導上の問題が起きたら、すぐに学年主任や管理職に相談・報告をしている。また、生徒指導の3つの留意点(自己決定の場を与える・自己存在感を持たせる・共感的人間関係を育成する)について意識していないまま生徒指導を行っていたため、この3つの留意点を意識し、生徒の自己指導能力の育成を目指したい。今後はさらに生徒理解を深め、トラブルが起きてから対応するのではなく、トラブルを未然に防ぐために、あいさつする、生活規律を正す、定期的に悩みを受け止める等の積極的生徒指導をしていきたい。

○生徒指導といわれると、問題行動への指導と考えがちだった。しかし、生徒指導は、子供たちの社会的資質や自己指導能力を高めるために行うということを改めて考えていきたいと思う。変化の激しい時代を生きていく子供たちが、自分の力で立派に歩んでいけるよう、教師として一人一人とよく向き合って指導していきたいと感じさせられた。また、問題行動が増加していることから、子供たち一人一人の良さを伸ばし、自身の価値を見出せるような温かい指導をしていきたい。

演習4 「特別支援教育の視点を生かした学級経営の充実」

東部教育事務所教育支援担当 指導主事 瀬高 武夫

- 1 誰にでも分かりやすい授業
 - ・授業のユニバーサルデザインの7原則
 - ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり12のポイント
- 2 一人一人の児童・生徒を大切にしたい学級経営
- 3 保護者や関係機関との連携
- 4 組織的な取組(チームで支援)



【受講者の感想】

- すべての児童が学びやすい学級づくりのために、特別支援教育の視点は必要不可欠です。今回の演習で特に実践してみようと思ったのは、学級モラルの形成です。児童同士が個性を認め合うには、「差」をそのまま意識させるのではなく、「よさ」に変える必要があります。こういった価値観は、普段から発信していかなければ児童には伝わりません。掲示等も生かしながら、個性を認める学級経営をしていきたいです。
- 自分のこれまでの学級経営や授業づくりを振り返ると、生徒目線ではなく教員目線になっている部分が少なからずあるということに気付かされました。ユニバーサルデザインの視点、特に「授業の見通し」「板書の工夫」「学級モラル形成」に力を入れていきたい。
- 現在、特別支援学級の授業を担当しているが、特別支援学級の授業を行うことが最も難しいと感じている。一方、特別支援学級でうまくいった授業は通常学級の授業でもうまくいくと感じている。特別支援学級の授業では、不要なものを削ぎ落として、本当にシンプルなものにしなければ生徒には伝わらない。この考えを忘れないようにしながら、少しずつステップ・アップした課題を、生徒がクリアできるような授業へと改善を図っていきたい。

演習5 「道徳教育の充実～柔軟な道徳授業をつくるために」

東部教育事務所教育支援担当 指導主事 鈴木 久美子

- 1 はじめに(道徳科の授業を振り返って)
- 2 道徳科になって知っておくべきこと
- 3 柔軟な道徳の授業をつくるために
- 4 道徳科における評価
- 5 終わりに

【受講者感想】

○生徒が理想の答えを考える授業ではなく、自分のこととして物事を捉えて考えることができる授業を展開する必要がある。まずは身近な問題や生徒が考える必要性を感じる問題を提起する。自分の意見を考えさせたうえで、多面的・多角的な考え方があることを発表や話し合いなどを通じて気付かせる。そのうえで、よりよく生きていくために自分ならどう実践するかを考えさせる授業を展開していきたい。

○以前までの道徳は、国語のように物語を追い、主人公の気持ちを考えながら、よりよい社会にするための「道徳心」を養う授業だったが、今は、それぞれの立場、気持ちを大事にし、その中でより良い方向に進むためにはどうしたらいいのかを考え、議論していくものになり、授業をするのが難しいと感じることが多い。自分がねらいとする場所に到着しきれなかった子どもの振り返りを見ると、反省の気持ちでいっぱいになる。時間配分を間違えることが多々あり、もう少し振り返りを書く時間を作りたかったなどと思う授業もある。失敗して学んだことを生かし、周りの先生方に指導をいただきながら、改善をしていきたい。

演習6 「良い授業のポイント(「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業のポイント)」

東部教育事務所学力向上推進担当 指導主事 金野 泰久

- 1 主体的・対話的で深い学びとは
- 2 「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業のポイント
- 3 「良い授業を見つけ！広めて！学力UP事業」研修用映像資料について

【受講者感想】

①学級活動・朝の会・帰りの会の進め方について

英語で質問するスピーチはとても勉強になった。全体で質問していたから苦手意識を感じている児童も一緒に参加できる取組であり、毎日行うから力もつく。「今日の運勢」という取組は高学年ならではのアイデアで面白い。児童がやりたいと思ったことを可能な限り具体化することが、教師の役割であると考えた。また、映像を視聴して、朝・帰りの会は毎日あるものだから、児童に力をつけられる貴重な時間であることに気付いた。今まで朝・帰りの会を深く考えたことがなかったが、授業をするときと同じように、児童にどんな力を身に付けさせたいかという目的をもって行う必要があることを学んだ。

②教科の授業の進め方について

既習事項の確認を提示する教師の姿から、自分が普段、口頭で済ませてしまうことが多いことに気が付いた。今後は図や簡単な板書をして視覚化することを意識していく。他にも、視覚的に違いを見つけさせることや、見やすい板書、「振り返りの視点」の可視化等、全体を通して視覚に訴える場面が多かった。ペア学習が制限される今だからこそ、このような視覚化を意識した教材研究に積極的に取り組み、授業力を向上させたい。